

湧別川河川整備計画検討会および地域からの意見を反映した
湧別川水系河川整備計画(原案)の修正案

平成22年8月19日

国土交通省 北海道開発局

■第3回検討会にて頂いたご意見の反映

原案

流域の地質は、主に半固結～固結堆積物及び火山性岩石から構成されている。
 海岸沿いの低地は砂礫が分布し、それが内陸山地の河谷沿いにのびている。
 中流の丘陵地には、砂岩・泥岩の互層及び火山性岩石の流紋岩等が分布している。
 上流の山地には半固結～固結堆積物の粘板岩等が分布している。これを覆って火山性岩石の軽石流堆積物が丸瀬布から上流域に分布している。生田原川上流の右岸域及び武利川最上流域には火山性岩石の凝灰岩が分布している。源流域の天狗岳周辺には安山岩が分布している。花崗岩などの深成岩類は最上流域山地に分布している。



(出典：土地分類図(北海道VI 網走支庁) 財団法人日本地図センター発行)
 図 1-6 地質図

意見

■流域には黒曜石が存在しており、地域の特徴でもあるので、地質の項目に記載してほしい。

修正案

流域の地質は、主に半固結～固結堆積物及び火山性岩石から構成されている。
 海岸沿いの低地は砂礫が分布し、それが内陸山地の河谷沿いにのびている。
 中流の丘陵地には、砂岩・泥岩の互層及び火山性岩石の流紋岩等が分布している。
 上流の山地には半固結～固結堆積物の粘板岩等が分布している。これを覆って火山性岩石の軽石流堆積物が丸瀬布から上流域に分布している。生田原川上流の右岸域及び武利川最上流域には火山性岩石の凝灰岩が分布している。源流域の天狗岳周辺には安山岩が分布している。花崗岩などの深成岩類は最上流域山地に分布している。
 また、湧別川上流域の白滝などでは黒曜石の露頭が見られ、周辺の遺跡からはその黒曜石を加工した大量の石器が見つかった。



(出典：土地分類図(北海道VI 網走支庁) 財団法人日本地図センター発行)
 図 1-6 地質図

原案

(3) 動植物の生息・生育状況

1) 湧別川下流域(河口～生田原川合流点付近)

湧別川の下流域において確認されている動植物は、表 1-6 のとおりである。

河口部左岸の砂丘地にはハマニンニク等の砂丘植生が生育している。河口から生田原川合流点付近までの下流域の高水敷は、採草地として広く利用されているほか、河川緑化公園等としても利用されている。また、山付き区間にはハルニレやドロノキ等の林が分布し、河岸にはヤナギを主体とする河畔林が分布している。

鳥類は、オオワシ、オジロワシ等の猛禽類の他、オシドリ等の多様な鳥類が良好な水辺や河畔林及び川沿いの山林を採餌地、休憩地として利用している。特に湧別川に沿った山付き林は世界的にも貴重性⁽¹⁾の高いオオワシの越冬環境として重要な役割を担っている。

魚類は、エゾウグイ、イトヨ日本海型等が確認されているほか、サケ・サクラマス・カラフトマスが遡上する。

注) IUCN(国際自然保護連合)レッドリスト危急種(絶滅危惧2類)

表 1-6 湧別川下流域における動植物確認種

分類	種数	確認種
哺乳類	7科12種	エゾヤチネズミ、カラフトアカネズミ ^特 、エゾユキウサギ、エゾシカ 他
鳥類	32科100種	留鳥 オシドリ ^特 、カワアイサ ^特 、オジロワシ ^特 、オオタカ ^特 、コチドリ ^特 、イカルチドリ ^特 、イソシギ ^特 、オオジシギ ^特 、オオセグロカモメ、ウミネコ、カワセミ ^特 、クマガラ ^特 、コアカゲラ ^特 、ショウドウツバメ、アカモズ ^特 、アオジ 他 旅鳥 ヒシクイ ^特 、コハクチョウ ^特 、ヒドリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ ^特 、オオワシ ^特 、オジロワシ ^特 、ユリカモメ、ケアシノスリ ^特 他
両生類 爬虫類	3科4種	エゾサンショウウオ ^特 、アマガエル、エゾアカガエル ^特 、アオダイショウ
魚類	10科28種	シベリアヤツメ ^特 、カワヤツメ ^特 、ヤチウグイ ^特 、マルタ ^特 、エゾウグイ ^特 、エゾイワナ ^特 、ニジマス ^特 、サケ、カラフトマス、サクラマス(ヤマメ) ^特 、イトヨ日本海型 ^特 、エゾトミヨ ^特 、ハナカジカ ^特 、エゾハナカジカ ^特 、ウキゴリ、ジュズカケハゼ 他
陸上昆虫類	157科601種	アオイトトンボ、ルリイトトンボ、カンタン ^特 、ヒナバタ、ホソアワフキ、チャマダラセセリ ^特 、ウラギンズジヒョウモン ^特 、オオツツリガ、フタオビキヨトウ、オオクロナガゴミムシ、マルガタツキヒラタゴミムシ 他
底生動物	77科126種	コシダカヒメモノアラガイ ^特 、モノアラガイ ^特 、キボシツブゲンゴロウ ^特 、オオアオイトトンボ ^特 、ウルマーシマトビケラ、エゾコオナガミズスマシ ^特 、ハセガワドロムシ ^特 他
植物	85科445種	木本 ドロノキ、エゾノキヌヤナギ、ハルニレ、ヤチダモ 他 草本 エゾノミズタデ ^特 、オオイタドリ、ノダイオウ ^特 、バイカモ ^特 、エゾノミヤマハコベ ^特 、キタミフクジュソウ ^特 、チドリケマン ^特 、ムラサキベンケイソウ ^特 、カラフトイバラ ^特 、ホザキシモツケ ^特 、カラフトモメンツル ^特 、ツリフネソウ ^特 、ホロマンノコギリソウ ^特 、ホソバツルリンドウ ^特 、エゾキヌタソウ ^特 、オオヨモギ、アメリカオニアザミ ^特 、オオハンゴンソウ ^特 、シラオイエンレイソウ ^特 、リュウノヒゲモ ^特 、クロユリ ^特 、カモガヤ ^特 、ハマニンニク ^特 、ヒメウキガヤ ^特 、オオアワガエリ ^特 、ミクリ ^特 、アカンカサス ^特 、ウスイロスガ ^特 、イトヒキスガ ^特 他

注1) 調査区域は河口付近、1号橋付近、中湧別橋付近

注2) 種数、確認種は河川水辺の国勢調査による。(哺乳類・両生類・爬虫類(平成19年度)、鳥類(平成9年度、平成14年度)、魚類(平成16年度、平成20年度)、陸上昆虫類(平成17年度)、底生動物(平成20年度)、植物(平成18年度))

注3) 特: 特定種・レッドリスト等の記載種、着: 着目種、外: 外来種を示す



ハマニンニク群落



オオワシ



エゾサンショウウオ

意見

■河畔林は鳥類の繁殖地としても利用されているので、P18 下から5行目「採餌地」の前に「繁殖地」を追加してほしい。

修正案

(3) 動植物の生息・生育状況

1) 湧別川下流域(河口～生田原川合流点付近)

湧別川の下流域において確認されている動植物は、表 1-6 のとおりである。

河口部左岸の砂丘地にはハマニンニク等の砂丘植生が生育している。河口から生田原川合流点付近までの下流域の高水敷は、採草地として広く利用されているほか、河川緑化公園等としても利用されている。また、山付き区間にはハルニレやドロノキ等の林が分布し、河岸にはヤナギを主体とする河畔林が分布している。

鳥類は、オオワシ、オジロワシ等の猛禽類の他、オシドリ等の多様な鳥類が良好な水辺や河畔林及び川沿いの山林を繁殖地、採餌地、休憩地として利用している。特に湧別川に沿った山付き林は世界的にも貴重性⁽¹⁾の高いオオワシの越冬環境として重要な役割を担っている。

魚類は、エゾウグイ、イトヨ日本海型等が確認されているほか、サケ・サクラマス・カラフトマスが遡上する。

注) IUCN(国際自然保護連合)レッドリスト危急種(絶滅危惧2類)

表 1-6 湧別川下流域における動植物確認種

分類	種数	確認種
哺乳類	7科12種	エゾヤチネズミ、カラフトアカネズミ ^特 、エゾユキウサギ、エゾシカ 他
鳥類	32科100種	留鳥 オシドリ ^特 、カワアイサ ^特 、オジロワシ ^特 、オオタカ ^特 、コチドリ ^特 、イカルチドリ ^特 、イソシギ ^特 、オオジシギ ^特 、オオセグロカモメ、ウミネコ、カワセミ ^特 、クマガラ ^特 、コアカゲラ ^特 、ショウドウツバメ、アカモズ ^特 、アオジ 他 旅鳥 ヒシクイ ^特 、コハクチョウ ^特 、ヒドリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ ^特 、オオワシ ^特 、オジロワシ ^特 、ユリカモメ、ケアシノスリ ^特 他
両生類 爬虫類	3科4種	エゾサンショウウオ ^特 、アマガエル、エゾアカガエル ^特 、アオダイショウ
魚類	10科28種	シベリアヤツメ ^特 、カワヤツメ ^特 、ヤチウグイ ^特 、マルタ ^特 、エゾウグイ ^特 、エゾイワナ ^特 、ニジマス ^特 、サケ、カラフトマス、サクラマス(ヤマメ) ^特 、イトヨ日本海型 ^特 、エゾトミヨ ^特 、ハナカジカ ^特 、エゾハナカジカ ^特 、ウキゴリ、ジュズカケハゼ 他
陸上昆虫類	157科601種	アオイトトンボ、ルリイトトンボ、カンタン ^特 、ヒナバタ、ホソアワフキ、チャマダラセセリ ^特 、ウラギンズジヒョウモン ^特 、オオツツリガ、フタオビキヨトウ、オオクロナガゴミムシ、マルガタツキヒラタゴミムシ 他
底生動物	77科126種	コシダカヒメモノアラガイ ^特 、モノアラガイ ^特 、キボシツブゲンゴロウ ^特 、オオアオイトトンボ ^特 、ウルマーシマトビケラ、エゾコオナガミズスマシ ^特 、ハセガワドロムシ ^特 他
植物	85科445種	木本 ドロノキ、エゾノキヌヤナギ、ハルニレ、ヤチダモ 他 草本 エゾノミズタデ ^特 、オオイタドリ、ノダイオウ ^特 、バイカモ ^特 、エゾノミヤマハコベ ^特 、キタミフクジュソウ ^特 、チドリケマン ^特 、ムラサキベンケイソウ ^特 、カラフトイバラ ^特 、ホザキシモツケ ^特 、カラフトモメンツル ^特 、ツリフネソウ ^特 、ホロマンノコギリソウ ^特 、ホソバツルリンドウ ^特 、エゾキヌタソウ ^特 、オオヨモギ、アメリカオニアザミ ^特 、オオハンゴンソウ ^特 、シラオイエンレイソウ ^特 、リュウノヒゲモ ^特 、クロユリ ^特 、カモガヤ ^特 、ハマニンニク ^特 、ヒメウキガヤ ^特 、オオアワガエリ ^特 、ミクリ ^特 、アカンカサス ^特 、ウスイロスガ ^特 、イトヒキスガ ^特 他

注1) 調査区域は河口付近、1号橋付近、中湧別橋付近

注2) 種数、確認種は河川水辺の国勢調査による。(哺乳類・両生類・爬虫類(平成19年度)、鳥類(平成9年度、平成14年度)、魚類(平成16年度、平成20年度)、陸上昆虫類(平成17年度)、底生動物(平成20年度)、植物(平成18年度))

注3) 特: 特定種・レッドリスト等の記載種、着: 着目種、外: 外来種を示す



ハマニンニク群落



オオワシ



エゾサンショウウオ

原案	意見	修正案
<p>(6) 河川空間の利用</p> <p>中流部、下流部の高水敷は、広く採草地に利用されているほか、市街地区間では野球場、ラグビー場、パークゴルフ場等のスポーツ施設や公園等が整備されている。そこではスポーツ等のレクリエーションやイベントの会場として利用されるほか、地域の催しや環境学習の場など多様に活用されており、人々がふれあい、地域の活性化に寄与する場としての役割を果たしている。また、遠軽町では良好な水辺空間形成と堤防の強化等を目的とした桜づつみが整備されている。</p> <p>一方、河川区域内においてゴミが不法投棄されている実態も踏まえ、河川空間の適正な利用を図るため、河川愛護活動などを含め関係機関と連携し、河川美化に向けた取り組みが望まれる。</p>  <p>河川緑地公園(湧別町) 運動公園(遠軽町)</p> <p>桜づつみ(遠軽町) 湧別原野クロスカントリースキー大会(遠軽町)</p> <p>サケの稚魚の放流(遠軽町) ゴミの収集(湧別町)</p>	<p>■河川空間の利用について、最近ではラグビーよりサッカーに利用されることが多いため、P22の3行目に「サッカー場」も追加してほしい。</p>	<p>(6) 河川空間の利用</p> <p>中流部、下流部の高水敷は、広く採草地に利用されているほか、市街地区間では野球場、ラグビー場、サッカー場、パークゴルフ場等のスポーツ施設や公園等が整備されている。そこではスポーツ等のレクリエーションやイベントの会場として利用されるほか、地域の催しや環境学習の場など多様に活用されており、人々がふれあい、地域の活性化に寄与する場としての役割を果たしている。また、遠軽町では良好な水辺空間形成と堤防の強化等を目的とした桜づつみが整備されている。</p> <p>一方、河川区域内においてゴミが不法投棄されている実態も踏まえ、河川空間の適正な利用を図るため、河川愛護活動などを含め関係機関と連携し、河川美化に向けた取り組みが望まれる。</p>  <p>河川緑地公園(湧別町) 運動公園(遠軽町)</p> <p>桜づつみ(遠軽町) 湧別原野クロスカントリースキー大会(遠軽町)</p> <p>サケの稚魚の放流(遠軽町) ゴミの収集(湧別町)</p>

■地域住民より頂いたご意見の反映

原案	意見	修正案
<p>(7) 河川の適正な利用及び河川環境上の課題</p> <p>湧別川は、多くの区間が堤防と山付林に囲まれ、ハルニレ・ドロノキやヤナギ類等の河畔林が連続している。また、サケ、サクラマス、カラフトマスが遡上・産卵し、オオワシ、オジロワシ等の貴重な猛禽類が河畔林及び川沿いの山林に見られるなど、豊かな自然環境を有していることから、これら生物の生息・生育・繁殖環境の保全に配慮する必要がある。</p> <p>魚類の移動の連続性については、開盛頭首工に魚道が整備されているが、KP20付近の取水施設では段差が生じており、サケ、サクラマス、カラフトマスなどの大型魚類の遡上・通過は確認されているものの、ヤマメなどの小型魚類の移動に支障を及ぼしている恐れがある。</p> <p>水質については、BOD が近年継続して環境基準値を満足していることから、引き続き関係機関と連携し、良好な状況を維持していく必要がある。</p> <p>その他、遠軽市街の高水敷にはスポーツ施設や公園等が設置され、多くの人々に利用されている一方で、ゴミ等の不法投棄が見られる。</p>  <p>下流河道の状況 (KP8.0 付近)</p>  <p>湧別川せせらぎ公園 (遠軽町)</p> <p>23</p>	<p>■湧別川上流の白滝市街周辺や支流の武利川で外来種のニジマスが確認され、また下流のダム湖ではウチダザリガニも確認されており、在来種への影響が心配される。</p>	<p>(7) 河川の適正な利用及び河川環境上の課題</p> <p>湧別川は、多くの区間が堤防と山付林に囲まれ、ハルニレ・ドロノキやヤナギ類等の河畔林が連続している。また、サケ、サクラマス、カラフトマスが遡上・産卵し、オオワシ、オジロワシ等の貴重な猛禽類が河畔林及び川沿いの山林に見られるなど、豊かな自然環境を有していることから、これら生物の生息・生育・繁殖環境の保全に配慮する必要がある。</p> <p>魚類の移動の連続性については、開盛頭首工に魚道が整備されているが、KP20付近の取水施設では段差が生じており、サケ、サクラマス、カラフトマスなどの大型魚類の遡上・通過は確認されているものの、ヤマメなどの小型魚類の移動に支障を及ぼしている恐れがある。</p> <p>現状においては、外来種による深刻な影響は確認されていないが、今後の分布拡大により生態系への影響が懸念されることから、関係機関等と連携し、注意深く監視する必要がある。</p> <p>水質については、BOD が近年継続して環境基準値を満足していることから、引き続き関係機関と連携し、良好な状況を維持していく必要がある。</p> <p>その他、遠軽市街の高水敷にはスポーツ施設や公園等が設置され、多くの人々に利用されている一方で、ゴミ等の不法投棄が見られる。</p>  <p>下流河道の状況 (KP8.0 付近)</p>  <p>湧別川せせらぎ公園 (遠軽町)</p> <p>23</p>

原案

1) 河川情報の収集・提供

河川の維持管理を適切に行うため、河川現況台帳を整備・保管する。水文、水質、土砂の移動状況、土地利用等の河川管理に資する情報とともに、河川水辺の国勢調査等により河川環境に関する情報を適切にモニタリングする。収集した情報は、気象状況の変化等に応じた検討にも供するための長期的な保存・蓄積や迅速な活用が図られるよう電子化を進める。

また、既存の無線システム及び光ファイバー網を活用し、雨量や河川の水位などに加え画像情報や堤防をはじめとする河川管理施設に関するデータ等の河川情報を収集する。

収集した河川情報については、平常時の河川の利用及び洪水時の防災情報として活用するため、インターネット等の情報通信網等を用い、関係機関及び住民に幅広く提供し、情報の共有に努める。

さらに、河川整備にあたっては、河川の状況や河川環境等の影響の把握が必要とされる項目について事前・事後調査を実施し、調査、研究成果等の保存・蓄積に努める。土砂移動に関する情報は、山地から沿岸域まで流域、水系一貫の視点を持つことに留意し、関係機関との情報共有に努める。

魚類調査



横断測量調査



両生類・爬虫類・哺乳類調査

河川情報の収集のための調査

意見

■湧別川上流の白滝市街周辺や支流の武利川で外来種のニジマスが確認され、また下流のダム湖ではウチダザリガニも確認されており、在来種への影響が心配される。

修正案

1) 河川情報の収集・提供

河川の維持管理を適切に行うため、河川現況台帳を整備・保管する。水文、水質、土砂の移動状況、土地利用等の河川管理に資する情報とともに、河川水辺の国勢調査等により貴重種や外来種等を含む河川環境に関する情報を適切にモニタリングする。収集した情報は、気象状況の変化等に応じた検討にも供するための長期的な保存・蓄積や迅速な活用が図られるよう電子化を進める。

また、既存の無線システム及び光ファイバー網を活用し、雨量や河川の水位などに加え画像情報や堤防をはじめとする河川管理施設に関するデータ等の河川情報を収集する。

収集した河川情報については、平常時の河川の利用及び洪水時の防災情報として活用するため、インターネット等の情報通信網等を用い、関係機関及び住民に幅広く提供し、情報の共有に努める。

さらに、河川整備にあたっては、河川の状況や河川環境等の影響の把握が必要とされる項目について事前・事後調査を実施し、調査、研究成果等の保存・蓄積に努める。土砂移動に関する情報は、山地から沿岸域まで流域、水系一貫の視点を持つことに留意し、関係機関との情報共有に努める。

魚類調査



横断測量調査



両生類・爬虫類・哺乳類調査



河川情報の収集のための調査